

## 正誤表・更新情報

本書中に訂正・更新箇所等がございました。お手数をお掛けしますが、下記ご参照頂けますようお願い申し上げます（2023年7月28日）

### ■第2版 第1刷（2023年3月1日発行）の修正・更新箇所

頁	場所	修正前	修正後	補足	掲載
<b>第I章-2 痛みの生理学と病理学</b>					
25	表1の脚注	文献2と3より引用.	文献1と3より引用.		23/03/03
27	上から7行目	膀胱痛症候群	膀胱痛症候群		23/04/21
27	図2			※1 参照. 大脳周辺の神経回路に変更あり	23/04/21
<b>第I章-5 温熱療法に必要な物理学と生理学</b>					
78	上から4行目	あるいはK(華氏, 絶対温度, ケルビン)	あるいはF(華氏), K(絶対温度, ケルビン)		23/07/21
78	上から8行目と9行目の間	-	・華氏(F)は大気圧で水が凍る温度を32F, 水が沸騰する温度を212Fとして, その間を180に等分して定義した.	上から8行目と9行目の間に文章を追加	23/07/21
78	上から9行目	華氏(K)は	絶対温度(K, ケルビン)は		23/07/21
78	上から11行目	したがって0 K(絶対零度)は	0 K(絶対零度)は	「したがって」を削除	23/07/21
78	上から11行目	華氏を	華氏(F)を		23/07/21
<b>第II章-4 超短波療法</b>					
115	上から11行目	頸部通	頸部痛		23/05/12
<b>第II章-8 光線療法</b>					
172	図3の説明	短波長成分(赤色)は屈折率が小さく, 長波長成分(紫色)は屈折率が大きい.	長波長成分(赤色)は屈折率が小さく, 短波長成分(紫色)は屈折率が大きい.		23/07/28

#### 図表

※1	修正前	修正後